

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2010年10月)
～自動車の反動減が大きく下押し～

発表日2010年11月29日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 岩田 陽之助
TEL : 03-5221-4525

(単位:%)

		商業販売額										コンビニ販売額	
		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店	スーパー	前年比	既存店 前年比	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比			
09	7-9月期	▲22.8	▲0.6	▲28.3	▲1.0	▲1.9	0.9	▲5.5	▲7.0	▲9.8	▲5.4	▲3.5	▲6.3
	10-12月期	▲14.9	▲0.2	▲19.3	▲0.4	▲0.7	▲0.1	▲6.4	▲7.0	▲8.8	▲5.8	▲3.1	▲5.9
10	1-3月期	▲0.7	3.1	▲2.2	3.0	3.8	2.7	▲4.2	▲4.9	▲4.9	▲4.9	▲2.3	▲5.2
	4-6月期	2.1	▲0.2	1.5	▲0.2	3.7	0.1	▲2.9	▲3.5	▲3.8	▲3.4	▲0.3	▲3.0
	7-9月期	1.5	▲1.4	0.9	▲1.9	3.2	0.3	▲1.1	▲1.6	▲3.0	▲0.9	6.9	4.2
09	4月	▲22.4	4.0	▲27.8	5.4	▲2.8	0.5	▲5.0	▲6.7	▲11.3	▲3.9	6.5	4.0
	5月	▲24.3	▲0.7	▲30.4	▲1.3	▲2.7	0.1	▲4.5	▲6.4	▲12.1	▲3.0	3.1	0.8
	6月	▲23.3	▲1.3	▲28.7	▲1.3	▲2.9	▲0.1	▲5.2	▲6.8	▲9.1	▲5.4	0.9	▲1.7
	7月	▲24.0	1.6	▲29.8	1.9	▲2.4	0.4	▲7.0	▲8.4	▲11.8	▲6.0	▲5.1	▲7.5
	8月	▲22.4	▲1.5	▲28.0	▲2.2	▲1.8	0.5	▲5.0	▲6.8	▲8.9	▲5.7	▲3.0	▲5.6
	9月	▲22.0	▲0.5	▲27.1	▲0.2	▲1.3	0.6	▲4.2	▲5.6	▲7.8	▲4.3	▲2.4	▲5.7
	10月	▲19.2	0.6	▲24.2	0.6	▲1.0	▲0.6	▲6.4	▲7.2	▲10.6	▲5.2	▲2.9	▲5.6
	11月	▲14.6	0.1	▲18.7	0.0	▲1.1	0.0	▲9.0	▲9.7	▲11.8	▲8.3	▲3.6	▲6.4
	12月	▲10.9	▲0.1	▲14.6	▲0.5	▲0.2	▲0.3	▲4.2	▲4.6	▲5.1	▲4.3	▲2.8	▲5.7
10	1月	▲3.8	6.4	▲6.1	7.7	2.3	2.0	▲5.1	▲5.7	▲5.7	▲5.7	▲2.5	▲5.5
	2月	▲0.9	▲2.6	▲2.7	▲3.2	4.2	0.9	▲3.4	▲4.0	▲5.3	▲3.3	▲1.8	▲4.9
	3月	2.4	▲4.0	1.5	▲5.9	4.7	0.8	▲4.1	▲4.9	▲3.6	▲5.6	▲2.4	▲5.1
	4月	3.6	6.1	3.1	8.1	4.9	0.5	▲3.1	▲3.7	▲3.7	▲3.7	▲1.2	▲3.9
	5月	1.3	▲3.0	0.7	▲3.6	2.9	▲2.0	▲3.2	▲3.9	▲2.1	▲4.8	▲0.8	▲3.7
	6月	1.3	▲1.3	0.6	▲1.3	3.3	0.4	▲2.4	▲3.1	▲5.7	▲1.6	1.2	▲1.4
	7月	1.0	2.1	▲0.1	2.3	3.8	0.7	▲1.0	▲1.3	▲1.4	▲1.2	2.9	0.3
	8月	2.1	▲1.8	1.2	▲3.0	4.3	1.4	▲1.3	▲1.8	▲3.0	▲1.3	3.2	0.7
	9月	1.5	▲1.3	1.5	0.0	1.4	▲2.8	▲1.1	▲1.7	▲5.0	0.0	15.1	12.2
	10月	0.1	0.8	0.2	1.6	▲0.2	▲1.9	1.2	0.4	0.6	0.3	▲3.3	▲6.0

(出所)経済産業省「商業販売統計」

○10月小売業販売額：前年比▲0.2%

経済産業省から本日公表された10年10月の小売業販売額は前年比▲0.2%となり、事前の市場予想（前年比+0.7%、レンジ同▲0.3%～同+1.7%）を下回る結果となった。季節調整値でも、前月比▲1.9%と2ヶ月連続で大幅に減少している。

低下の主因は、前月に続き自動車販売の大幅減少だ。9月上旬でエコカー補助金が終了して以降、乗用車販売の大幅な落ち込みが続いており、自動車小売業（前月比▲19.0%）は9月（同▲17.0%）から一段と水準を切り下げる格好となった。背景として、9月の実績は9月7日までエコカー補助金制度が続いていたことによって若干下支えされていた反面、10月はその要因が剥落し制度終了後の販売減少の影響がより大きく出たことが考えられる。

また、今月はたばこの販売減少もマイナスに寄与したと考えられる。10月1日からのたばこ値上がり前に発生した駆け込み需要の反動が生じた。たばこが主に販売されるコンビニエンスストアの販売額指数を確認すると、たばこが含まれる非食品の販売額は前月比▲42.8%と減少しており、全体も同▲15.5%の低下となっている。業種別商業販売額指数において、各種商品小売業（前月比▲1.8%）や飲食物品小売業（同▲0.4%）の減少は小幅に止まっているが、サンプル要因などによって上記の変化がうまく反映されていない可能性もあり、実際の落ち込み幅はより大きなものとなっている可能性がある。

他方、増加に寄与したものとしては機械器具小売業（前月比+8.4%）などが挙げられる。12月からのエコポイント半減に向けて薄型テレビを中心に家電販売が増加しているようだ。また、織物・衣服・身の回り品小売業（同+0.5%）も小幅増加した。10月下旬以降の気温低下によって、これまで出遅れ気味だった秋冬物衣料の販売増加につながっていると考えられる。

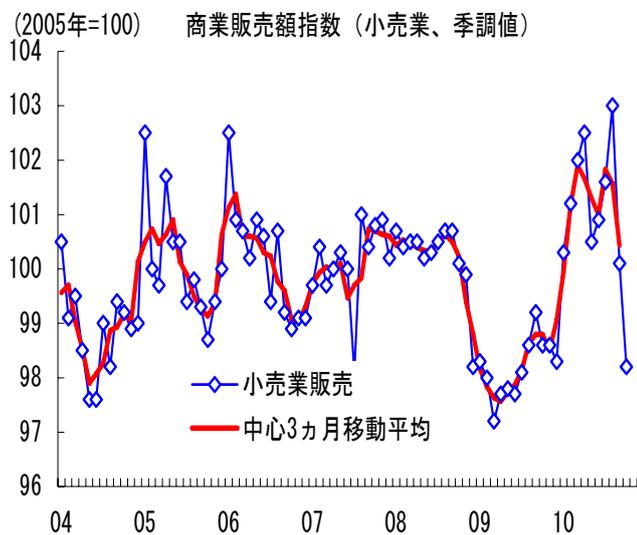
このように、一定程度の下支え要因はあったものの、自動車やたばこの反動減の影響は大きく、10月の小売業販売額は弱い結果となった。10月の小売業販売額は7-9月期平均対比でも▲3.3%と大きく悪化している。

○自動車、たばこの反動減が10-12月期の個人消費を下押し

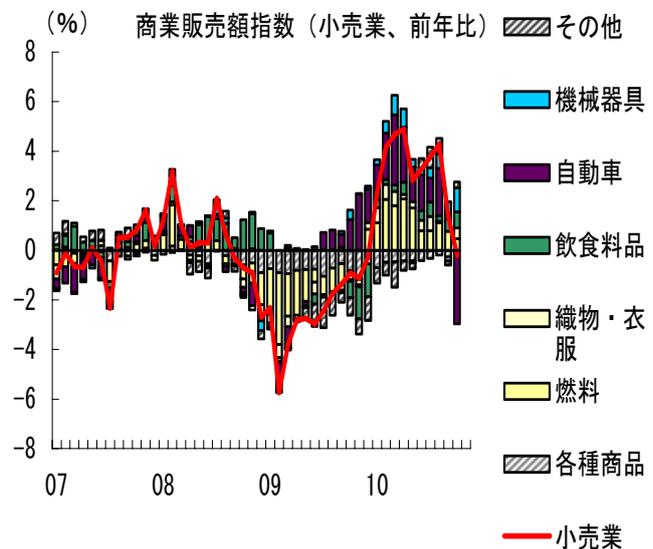
自動車とたばこの両品目においては、大幅な「需要の先食い」が生じており当面販売の回復は見込みがたい。こうした反動減の影響は10-12月期を通して個人消費を大きく抑制しそうだ。

家電については、12月からエコポイントの付与点数が半減するため、11月も薄型テレビを中心として販売は好調のようである。ただ、これも12月に反動が出るであろうことを考えれば、10-12月期全体で見たときにどの程度の影響が出るかは不明である。また、今冬はラニーニャ現象の発生によって例年よりも寒い気候となることが予想されており、今月のように秋冬物衣料の販売増加などが期待されるが、気温の低下は行き過ぎれば外出する人の減少を招く結果ともなる。個人消費に対する影響の度合いは現時点では不透明感が強い。

消費者のマインドも悪化しつつあり、消費支出の抑制傾向は続くだろう。前述の通り自動車とたばこの販売減が続くことも併せて考えれば、10-12月期の個人消費は低調な結果となる公算が大きい。個人消費が高い伸びを示した7-9月期から一転、10-12月期は個人消費が経済成長の抑制要因となりそうだ。

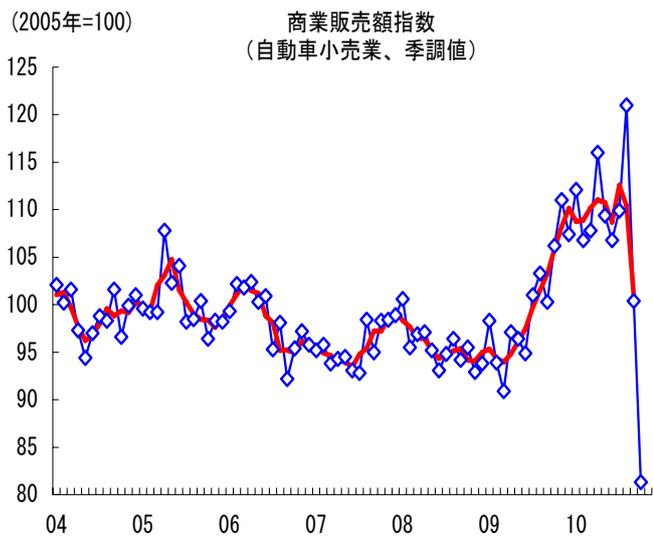


(出所) 経済産業省「商業販売統計」

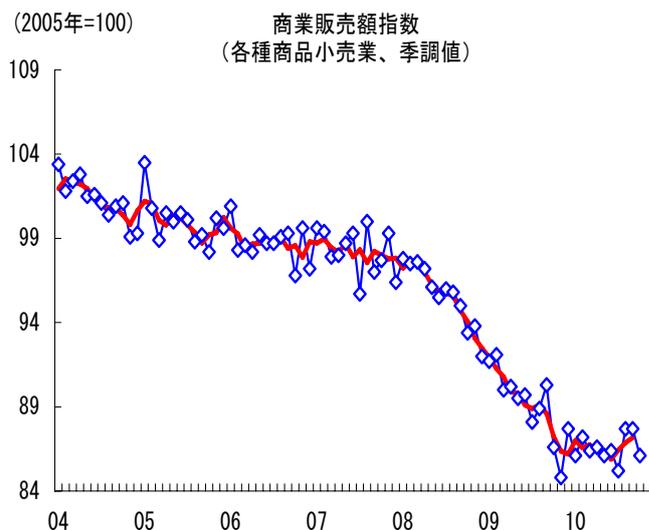


(出所) 経済産業省「商業販売統計」

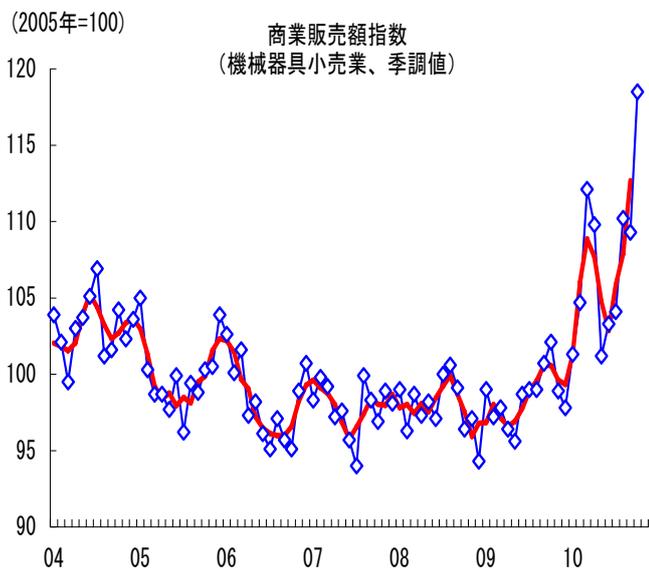
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



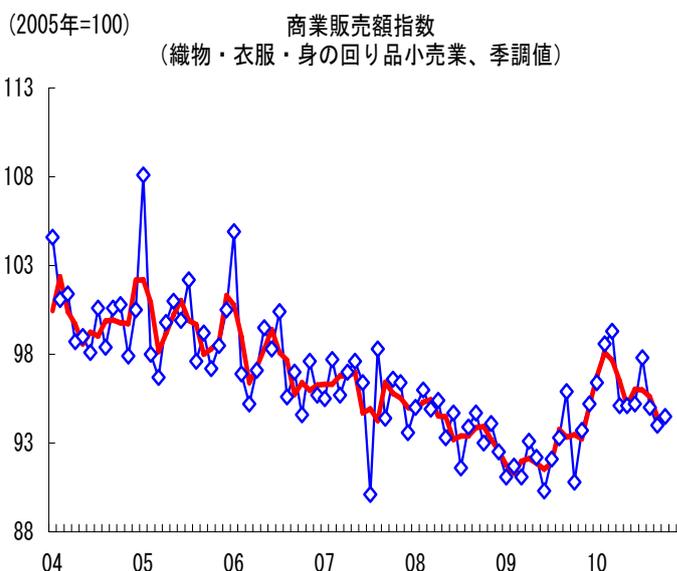
(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」